

温かなまなざし

校長 萩野 幹夫

先日、ベルサイユのばらで有名な池田理代子さんの小学校時代のことが書かれた新聞記事を読みました。集団行動ができないため、普通学級では難しいと担任から言われながらも、わが子の個性を伸ばそうとしているお母さんの必死の思いと、どんな困難をも母子で乗り越えたお話でした。その後は、個性を伸ばし漫画家として、音楽家としても一流の人間として尊敬されていることは周知の事実です。目の前にいる学校の子供が、どういう環境の中なら生き生きと育っていくのか考えさせられた記事でした。

若い頃に教育者としての進むべき方向に導いてくれた一冊の本、河合隼雄著『子供と学校』があります。この本には「教育とは何か?」ということが中心に書かれています。

『教育というと一般的には「教える」ということに重点が置かれているが、「育てる」という行為も大切な要素である。「育」には「育てる」と「育つ」の二通りの意味があり、育つという主体的に伸びようとする面が軽視される傾向が強いのではないだろうか、そこに目を向けて教育することは大切である』と述べられています。

「教えること」と「育てる・育つこと」のバランスを上手に取りながら、子供一人一人の個性を生かし、力をつけていくことで、子供の生きる力につながっていきます。

本校の先生方はこのことをよく理解し、学習面・生活面とも一人一人の能力特性・その子の思いや願いなど、よく見極めながら指導していることが授業や学級通信からうかがい知ることができます。

今月はチルドレンズフェスティバルがあります。学校を家庭に公開し、お子さんの活動の様子を見ていただくことで、学校理解の一助となることを望んでいます。

私たちは子供たちのできた、できないという結果や表面的な部分だけではなく、目には見えにくい内面的な子供の育ちの部分に思いをはせていくコンセプトが大切です。大人の温かいまなざしや言葉がけが、これから多くのことを経験し、様々なことを学ぶ子供たちにとって、とても大切なエネルギーとなります。

子供に接するすべての大人の愛情がいかに大切かを改めて思い、振り返る今日この頃です。

寄贈品のお礼

PTAのバザー収益金よりアセンブリーホール用スポットライトを2台いただきました。停電後もすぐ使用できるLED照明です。チルドレンズフェスティバルなどで活用させていただきます。ありがとうございました。

学校の警備強化について

日本人学校の安全強化については、大使館からも日頃よりご支援いただいています。先月より、大使館から地元警察署に、本校の安全強化の申し入れをしていただき、警察官が毎日3～4回の立ち寄りの巡回をしています。その際にセキュリティー小屋においてあるノートに巡回サインをしてもらっています。

正門前に「POLICE」と書かれた大きな車が止まっていることがありますが、事件が起こったためではありませんので、どうぞご安心ください。

『新生・チルドレンズ・フェスティバル』

文化指導部主任 廣川 雅也

チルドレンズフェスティバルが、いよいよ10月29日（土）に迫りました。今年度は内容が見直され、大きな変更がなされました。

まず一つ目は、昨年度まで第1部「ステージパフォーマンス」、第2部「生活・総合発表（ワークショップ）」の2部構成だったものが、ステージパフォーマンスのみの実施になったことです。変更の背景には、ここ数年の児童生徒数の増加に伴い、これまで実施してきた縦割りグループでのワークショップ運営が難しくなってきたこと、縦割りではなく各学年の発達段階に応じた総合的な学習の充実を図っていくことの重要性が見直されたことです。

二つ目は、ステージパフォーマンスの出場枠が幼稚部、小学部各学年、中学部となったことです。これにより、各学年の子供たちが主役として、より豊かな発表の機会を持つことが可能となりました。

三つ目の変更点として、従来の異学年でつながる良さも残そうと、連学年の合唱を組み込みました。

新たな形でのチルドレンズフェスティバルになりますが、従来通り、国際理解教育の一環としての現地校の子供たちも招待し、発表も見られます。

『新生・チルドレンズフェスティバル』の主役は子どもたちです。一人一人が精いっぱい演じ、発表し、そして歌いながら、それぞれの文化の良さや作品の素晴らしさを発信します。

皆様のあたたかいご声援をどうぞよろしくお願いいたします。

『笑顔も二倍な幼稚部』

幼稚部主任 クラーク 潤子

保護者の皆様には、幼稚部の活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。七夕の会の手作りパネルシアター、フルーツパフェを作った親子食育の活動、歌やゲームにご参加いただいた参観日、そして学校公開日では、毎年恒例になった敬老の日のメッセージカードと一緒に制作していただくなど、意欲的にご協力いただきました。今後も、行事では保護者の方々と共に笑顔がいっぱいになる一時がもてる活動となるように考えておりますので、引き続きご協力をお願いいたします。

また、小・中学部の皆さんとも楽しい交流をしています。6年生とは、マンゴー狩りを楽しみ、また縄文土器も一緒に作りました。家庭科保育実習で、園児たちと本気で遊んでくれた中学1年生は、お着替え、お弁当、紙芝居の読み聞かせまで、誰もが優しく、丁寧にお世話をしてくれました。YJS 幼稚部を卒園した中学部の生徒も数名おり、当時はB棟にあった幼稚部を思い出し、「こんな歌を歌っていた」「以前よりおもちゃが多くなった」など、懐かしそうに教えてくれたのが印象的です。

先月末、クラスで毎日熱心にお店屋さんの活動準備を行っていた年長パイヤ組。ついにオープンしたお店『パイヤブラザ』には、年少・年中児のお客さんに加え、学校の先生や児童たちも休み時間を使って買いに来てくれて、大繁盛なお店屋さんごっこになりました。

幼稚部は今月、3クラス合計40名の在園児になりました。この二年間で在園児数は二倍となりました。笑顔も二倍に増えた幼稚部は、今年度も元気いっぱいです。

<9月の学校運営委員会報告>

9月19日 9:30~11:30

出席: 本宮委員長、中村教育担当、梁井 PTA 会長、大使館東書記官、萩野校長

オブザーバー: 木村日本人会副会長 渡邊教頭 塚本事務長

議 事 ①学校の様子について②学校建設について③B棟撤去にかかわる工事について

④8月会計報告 ⑤9月の行事予定について ⑥その他